

令和7年度 兵庫県農業気象技術情報第3号（7月情報）について

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	県北	1 生育 コシヒカリの草丈はきわめて高く、莖数はきわめて多く、葉齢の進展は進んでいた。	
		2 栽培管理 中干しを終了して、分施体系では、適期に穂肥を施用する。省力体系でも幼穂形成期から出穂期までに極端に葉色がさめる場合は穂肥を検討する。	2 栽培管理 高温により稲の生育が早まるので、穂肥診断を的確に実施し、適正施用に努める。
	県北以外	1 生育 草丈は短い、莖数はやや多いから多く、葉齢の進展はやや早い。	
		2 栽培管理 目標穂数の7、8割程度の莖数が確保できれば、中干しを実施する。中干しは小ひびが入れる程度にし、おおむね7日間程度とする。 分施体系の場合、適期に穂肥を施用する。省力体系でも幼穂形成期から出穂期までに極端に葉色がさめる場合は穂肥を検討する。	2 栽培管理 高温により稲の生育が早まるので、穂肥診断を的確に実施し、適正施用に努める。
全県共通		1 病害虫 (1) ヒメトビウンカ第1世代虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は近年2%より低く推移しており、本年は平均で0.9%で過去10年間と比べて最も低かった。しかし、保毒虫率が昨年に比べて高くなっている地点もあるので、今後の発生状況に注意する。 海外飛来性ウンカ（セジロウンカ、トビイロウンカ）については、セジロウンカの飛来を確認している。 (2) 今後の気象は、1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並の予想である。また、これまでいもち病の発生予測システムBLASTAM [®] では6月2	1 病害虫 (1) イネ縞葉枯病の本田における初期発病株（葉色が薄くなり巻いて垂れ下がるゆうれい症状を現す）は、ヒメトビウンカにとって新たなウイルス獲得源となるので、速やかに抜き取る。初期発病株が多数確認される場合は、後期発病を予防するため、ヒメトビウンカに対する本田防除を実施する。防除の要点については「水稲、小麦二毛作地域における縞葉枯病防除マニュアル」を参考にする（ https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/wp/wp-content/themes/pest/pdf/aside2-2.pdf ）。 海外飛来性ウンカについては、ほ場調査や病害虫発生予察情報等により、今後の発生状況に注意を払い、防除については、「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に、適正に防除する。 (2) ほ場をよく観察して葉いもちの発生状況を把握する。ほ場内の補植用苗は早急に処分する。いもち防除剤の育苗箱処理をしていない場合や育苗箱処理していても移植40～50日後以降に葉

水稲	全 県 共 通	<p>半旬、3半旬、5半旬に感染好適日が出ているため、今後の発生に注意が必要である。</p> <p>(3) 6月以降、予察灯において斑点米カメムシの誘殺を確認しており、特にクモヘリカメムシは例年に比べ早い誘殺である。近年、耕作放棄地の増加等から、斑点米カメムシの発生が多い傾向にある。また、水田内においてもイネカメムシ、クモヘリカメムシなど大型カメムシの発生を確認している。圃場内の発生把握に努める。</p>	<p>いもちが発生している場合は、ただちに防除する。また、強い中干しや過剰な追肥は避け、穂いもちの防除は穂ばらみ期～出穂直前に実施する。7月中旬まで、兵庫県病害虫防除所ホームページ上で提供しているBLASTAM※によるいもち病の感染好適日の情報を参照する (https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/blastam)。</p> <p>(3) 雑草管理ができていない畦畔は、斑点米カメムシ類の増殖場所となるため、適宜、草刈りを行う。イネカメムシに対しては、出穂期からほ場に侵入することから、不稔被害を防ぐため、出穂期の薬剤防除を行う。</p>
<p>※ BLASTAM:葉いもちの感染好適日を推定する予測システムモデル。気象条件から感染好適条件を推定する。好適日が連続するとき、広域に出現するときは多発条件となるので注意が必要である。</p>			
大豆	全 県 共 通	<p>1 栽培管理</p> <p>「サチュタカA1号」の栽植密度は、播種適期の6月下旬～7月上旬では8～12株/m²とし、播種が7月中旬になれば20株/m²の密播とする。</p> <p>事前に十分な排水対策を行い、「播種直前に耕うん、砕土を丁寧に行い、播種する。苗立ち確保に向けて、明きょ等の排水対策を必ず講じる。</p> <p>中耕培土を行う場合は、除草を兼ねて早めに行う（目安は本葉3葉期以降）。2回実施するのが理想的である（目安は本葉5葉期まで）。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) フェロモントラップでは、ハスモンヨトウの誘殺数は平年よりやや多く推移している。</p> <p>(2) 3か月予報では、今後、降水量は平年並～少ない予報であるが、気温は高く推移すると予想されているため、畝間灌水等を行う場合は、排水の悪い圃場では特に黒大豆の立枯性病害の発生に注意する。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>(1) 生育初期でのハスモンヨトウの幼虫の発生は被害が大きくなりやすいので、「病害虫発生予察情報」や「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に、速やかに、かつ適正に防除する。</p> <p>(2) 黒大豆の立枯性病害の常発地では、排水対策を徹底する。</p>

キャベツ	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 目標とする収穫時期に応じた品種、播種時期を選定する。</p> <p>(2) 高温期の育苗のため、過乾燥・過湿に注意して健苗育成に努める。</p> <p>(3) セルトレイ育苗中期以降の肥料切れに注意する。</p> <p>(4) 降雨によるほ場作業の遅れや、台風、長雨による冠水に注意する。</p> <p>(5) 定植後の活着促進と欠株の発生防止に努める。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 地域の暦に従って種子、育苗資材等の準備を進める。</p> <p>(2) ベンチ等での浮かし育苗に努め、苗が徒長しないよう夕方のかん水を控える。発芽後、子葉の奇形など異常のある苗は取り除く。</p> <p>(3) 早めに液肥を施用する。</p> <p>(4) 高畝栽培とし、明きょ等の排水対策を徹底する。</p> <p>(5) 土壌の適湿時に耕うん、畝立てを行う。定植の際、セルトレイには十分かん水し、根鉢を湿らせておく。定植後は、かん水チューブ等で十分にかん水し、活着を図る。なお、欠株が生じた際は速やかに補植を行う。</p>										
		<p>2 病害虫</p> <p>ハイマダラノメイガの誘致植物（クレオメ）による調査において、花芽の寄生率は平年よりやや多く、今後、本種の発生が本格化するので注意する。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>病害虫の発生がみられる場合は、「病害虫発生予察情報」や「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に適正に防除する。</p>										
果樹	全県共通	<p>1 生育と栽培管理</p> <p>雨水がすみやかに園外に流れるよう、明きょや排水溝の掃除等の排水対策に努める。高温少雨が続く場合は、かん水設備や敷き草、マルチなどで乾燥防止対策を実施する。また、早めのかん水を行う。かん水量が十分に確保できない場合は、樹冠周囲に集中的に行う。土壌水分の競合を避けるため、下草は刈り取り樹冠下に敷き、土壌からの蒸散を防ぐ。</p>											
<p>樹種別の生育状況</p> <table border="1"> <tr> <td>クリ※¹</td> <td>開花期は昨年並みで、平年比で2日早い。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ※¹</td> <td>生育はほぼ昨年並みで、平年より2日早い。</td> </tr> <tr> <td>ナシ※²</td> <td>果実の生育は昨年並みで、平年より1日早い。</td> </tr> <tr> <td>イチジク※¹</td> <td>発芽期は平年よりも2日遅く、着果始めは平年並み。</td> </tr> <tr> <td>温州ミカン※³</td> <td>果実の生育は昨年比でほぼ同等で、平年並。</td> </tr> </table> <p>※1 加西市 ※2 朝来市 ※3 南あわじ市</p>				クリ※ ¹	開花期は昨年並みで、平年比で2日早い。	ブドウ※ ¹	生育はほぼ昨年並みで、平年より2日早い。	ナシ※ ²	果実の生育は昨年並みで、平年より1日早い。	イチジク※ ¹	発芽期は平年よりも2日遅く、着果始めは平年並み。	温州ミカン※ ³	果実の生育は昨年比でほぼ同等で、平年並。
クリ※ ¹	開花期は昨年並みで、平年比で2日早い。												
ブドウ※ ¹	生育はほぼ昨年並みで、平年より2日早い。												
ナシ※ ²	果実の生育は昨年並みで、平年より1日早い。												
イチジク※ ¹	発芽期は平年よりも2日遅く、着果始めは平年並み。												
温州ミカン※ ³	果実の生育は昨年比でほぼ同等で、平年並。												

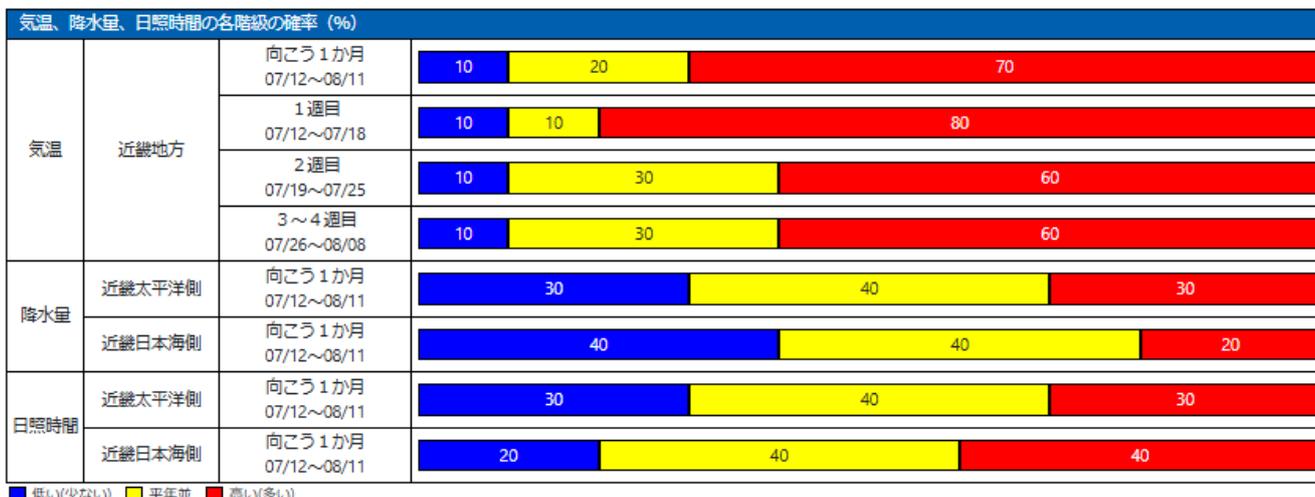
果樹	全 県 共 通	<p>2 病害虫</p> <p>果樹カメムシ類は、フェロモントラップや予察灯での誘殺数は平年並で、今後活動性が高くなるため、果樹園での発生に注意する。</p> <p>ぶどうでは、灰色かび病の発生が確認されている。</p> <p>6月下旬のなし調査では黒斑病は平年並の発生となっている。</p> <p>いずれの樹種も今後、これまでの降雨の後の高温で、樹勢が弱ることが予想されるため、各種病害の発生・拡大に注意する。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>園地での発生状況を観察し、必要に応じて適期防除を行う。「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に適正に防除する。</p>

◎水稲・麦・大豆の栽培については、「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針」を参考にすること。
 ※本情報は、7月8日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1)近畿地方の向こう1か月予報

近畿地方 1か月予報 (07/12~08/11)		
2025年07月10日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高い状態が続く見込みです。
向こう1か月 07/12~08/11	天候	近畿日本海側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	降水量	降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。
1週目 07/12~07/18	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 07/19~07/25	気温	2週目は、高い確率60%です。
3~4週目 07/26~08/08	気温	3~4週目は、高い確率60%です。



(2) 近畿地方の向こう3か月予報

近畿地方 3か月予報 (07月～09月)		
2025年06月24日14時00分 大阪管区気象台 発表		
07月～09月	気温	平均気温は、高い確率60%です。
07月	天候	期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
08月	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
09月	天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	07月～09月	10 30 60
		07月	20 30 50
		08月	20 30 50
		09月	20 30 50
		07月～09月	30 40 30
降水量	近畿地方	07月～09月	30 40 30
		07月	40 30 30
		08月	30 30 40
		09月	30 30 40
		07月～09月	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い（少ない・平年並・多い）の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間（1991～2020年）における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- 「兵庫県病虫害防除所（病虫害発生予察情報）」
<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>
- 「病虫害・雑草防除指導指針」
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- 「兵庫県総合防除計画」
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>
- 「稲・麦・大豆作等指導指針」
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- 兵庫県農林水産部農産園芸課

TEL (078) 341-7711 (代表)
 農産班: 主作・機械担当 内線 79409
 農産班: 野菜担当 内線 79410
 花き果樹班 内線 79411

技術内容に関すること

- 兵庫県立農林水産技術総合センター
 - 企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435
 - 農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410
 - 農業技術センター 病虫害部 TEL (0790) 47-1222
 - 北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230
 - 淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880